

### 3) 植生の状況

山梨県の調査区域の植生の状況を図 5-1-14 に示します。調査区域の中央自動車道接続区間では主に水田雑草群落、アカマツ植林等が分布しており、長野県との県境付近ではアカマツ植林、カラマツ植林、クリーミズナラ群落、アズマネザサーススキ群集等が分布しています。また、八ヶ岳山麓にはカラマツ植林が広く分布し、牧草地が点在しています。八ヶ岳の標高が高い部分にはフジハタザオーオンタデ群集やコメツガ群落等も見られます。

長野県の調査区域の植生の状況を図 5-1-14 に示します。植生は、人里近くの山地から標高 1,700m~1,800m のミズナラ林域までの広い範囲にわたって植林が見られます。この植生のほとんどはカラマツで、スギ、ヒノキ、サワラ等はわずかです。このカラマツ植林の中にカスミザクラコナラ群落が高標高地ではクリーミズナラ群落が分布しています。野辺山の台地には畑地雑草群落、牧草地が広く分布しています。この他、河川に沿ってヤナギ林、湿地や湿生地にハンノキ林、ハルニレ林等の自然植生が各地に分布しますが、いずれも植生図に示すほどの広がりはありません。

これらのうち、配慮が必要と考えられる自然植生や代償植生のうち自然林に近い植生の区域を図 5-1-15 に示します。これらの植生区分は、表 5-1-47 に示す植生自然度が 8 以上に該当するものを抽出したものです。

表 5-1-47 植生自然度区分基準

植生自然度	区分基準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツトドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	クリーミズナラ群落、クヌギコナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原
3	果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地
2	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

出典) 環境省自然環境局生物多様性センターホームページ

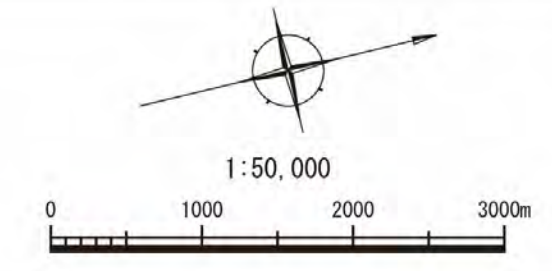




図 5-1-14 現存植生図

- 凡 例
- 事業実施区域
  - 県境
  - 市町村界
- |               |              |
|---------------|--------------|
| 高山低木群落        | ササ草原         |
| 高山ハイデ及び風衝草原   | ススキ群団        |
| フジハタザオ-オンタデ群集 | カワラマツバナススキ群落 |
| シラビソ-オオシラビン群集 | シバ群団         |
| コメツガ群落        | クヌギ-コナラ群集    |
| ミドリユキザサ       | アズマネザサ-ススキ群集 |
| ダケカンバ群団       | ヌマガヤオ-ダー     |
| シナノキンバイ       | ヨシクラス        |
| ミヤマキンポウゲ群団    | ツルヨシ群集       |
| ササ群落          | ウラジロミ植林      |
| 伐跡群落          | シラビン植林       |
| ダケカンバ群落       | アカマツ植林       |
| ツガ-コカスゲ群集     | スギ・ヒノキ・サワラ植林 |
| ウラジロミ群落       | カラマツ植林       |
| アカマツ群落        | ヤマハノキ植林      |
| ジュウモンジシダー     | 落葉果樹園        |
| サワグルミ群集       | 桑園           |
| ヤナギ高木林        | 畑地雑草群落       |
| ヤナギ低木群落       | ヒムカシヨモギ      |
| ハンノキ群落        | オオアレチノギク群落   |
| フジアカシウマ       | 牧草地          |
| シモツケソウ群集      | 水田雑草群落       |
| フジアザミ         | 市街地          |
| ヤマホタルブクロ群集    | 線の多い住宅地      |
| ケヤキ群落         | 造成地          |
| ウラジロミ-コメツガ群落  | 造成地、裸地       |
| ハリモミ群落        | 開放水域         |
| クリ-ミズナラ群落     | 自然裸地         |
| カスミザクラ-コナラ群落  |              |
| アカシデイヌシデ群落    |              |
| シラカンバ群落       |              |
| レンゲツツジ        |              |
| シラカシ群落        |              |
| ニシキウツギ        |              |
| ノリウツギ群落       |              |

山梨県出典：「第2回～5回自然環境保全基礎調査 植生調査 山梨県」  
 (昭和54年度～平成10年度、環境庁)  
 長野県出典：「第2回～5回自然環境保全基礎調査 植生調査 長野県」  
 (昭和54年度～平成10年度、環境庁)





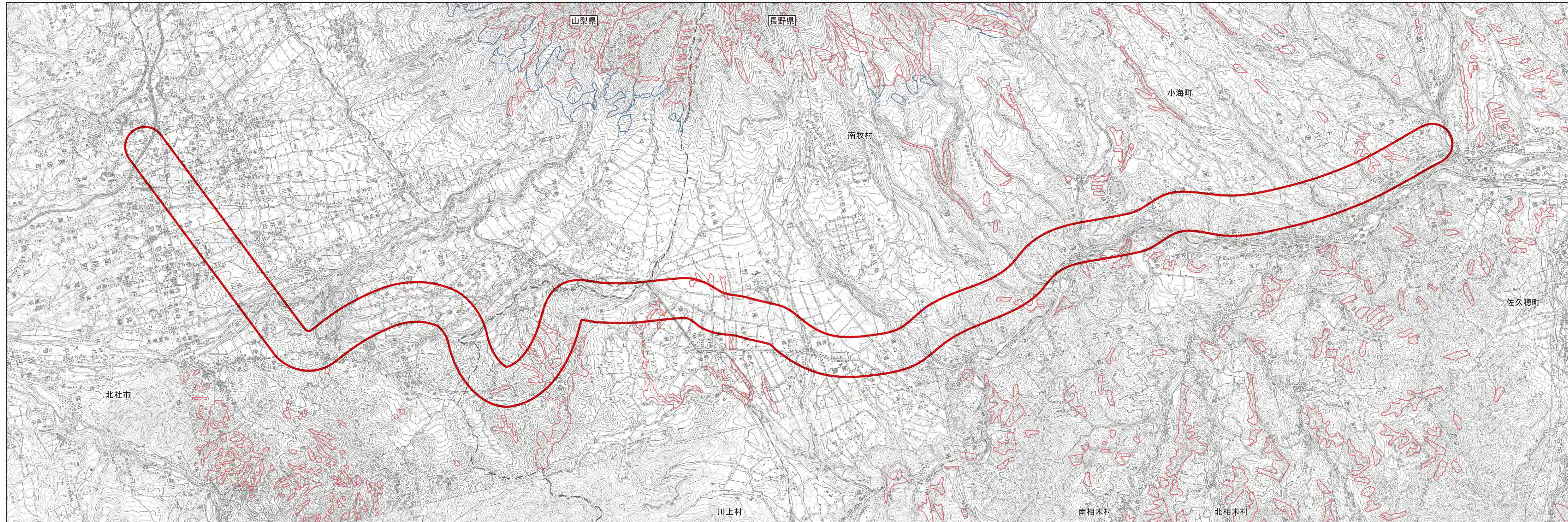


図 5-1-15 植生自然度分類図

凡 例

- 事業実施区域
- 県境
- 市町村界
- 植生自然度 9
- 植生自然度 8

山梨県出典：「第2回～5回自然環境保全基礎調査 植生調査 山梨県」  
 (昭和54年度～平成10年度、環境庁)  
 長野県出典：「第2回～5回自然環境保全基礎調査 植生調査 長野県」  
 (昭和54年度～平成10年度、環境庁)



1:50,000





### (3) 生態系の状況

#### 1) 自然環境の類型区分

山梨県及び長野県の調査区域における地形、植生等状況から、これらの情報を重ね合わせ整理することにより自然環境の類型区分を行い、調査区域の生態系の概略を把握することとしました。

調査区域の自然環境類型区分は、「高山帯・亜高山帯-自然林・自然植生」「山地・低地・台地-自然林・自然植生」「山地・低地・台地-二次林・二次草原」「山地・低地・台地-植林」「低地・台地-農耕地」「自然草原・開放水域」「市街地」の7区分に類型化しました。これらの区分の総括を表 5-1-48 及び図 5-1-16 に示します。

表 5-1-48 自然環境類型区分の概況

No.	類型区分	地形区分	地質区分	土壌区分	植生区分
1	高山帯・亜高山帯- 自然林・自然植生	大起伏火山地	安山岩質岩石	乾性ポドソル土壌 黒ボク土壌 乾性褐色森林土壌	高山ハイデ及び風衝草原 フジハタザオーオンタデ群集 ミドリユキザサ-ダケカンバ群団 シナノキンバイ-ミヤマキンボウゲ群団 シラビソ-オオシラビソ群集
2	山地・低地・台地- 自然林・自然植生	中起伏火山地 小起伏火山地 大起伏火山地 中起伏山地 火山性丘陵地 火山麓地 扇状地性低地	砂岩・泥岩互層 泥岩(頁岩・粘板岩) 火山灰 火山砕屑物	黒ボク土壌 褐色森林土壌	ウラジロモミ群落 ツガー-コカンスゲ群集 ジュウモンジシダ-サワグルミ群集 ヤナギ高木林 フジアザミ-ヤマホタルブクロ群集
3	山地・低地・台地- 二次林・二次草原				ダケカンバ群落 クリ-ミズナラ群落 シラカンバ群落 カワラマツバ-ススキ群落 ササ草原
4	山地・低地・台地- 植林				ウラジロモミ植林 カラマツ植林 アカマツ植林 スギ・ヒノキ・サワラ植林
5	低地・台地-農耕地				ヤナギ低木群落 ハンノキ群落 アカマツ群落 ケヤキ群落
6	自然草原・開放水域	火山性丘陵地 火山麓地 扇状地性低地	火山灰 火山砕屑物	黒ボク土壌 多湿黒ボク土壌 褐色森林土壌	カスミザクラ-コナラ群落 アカシデ-イヌシデ群落 クスギ-コナラ群集 ニシキウツギ-ノリウツギ群落 カワラマツバ-ススキ群落 ササ草原
7	市街地				市街地 緑の多い住宅地 造成地



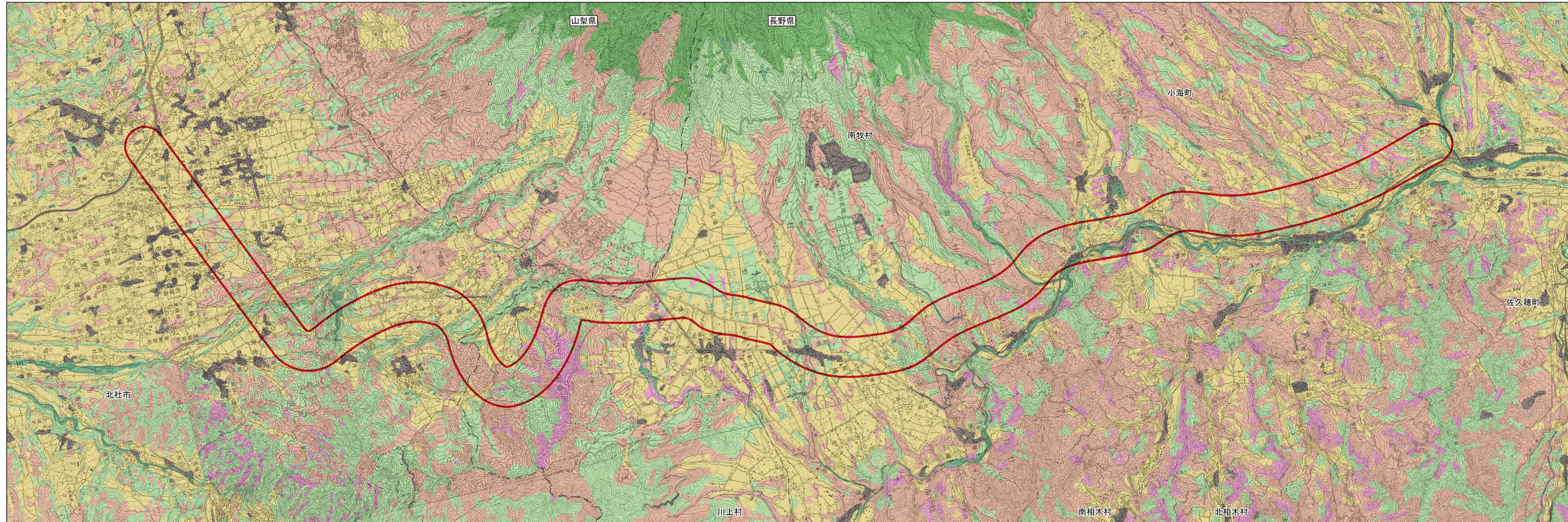


図 5-1-16 自然環境類型区分図

凡 例

- 事業実施区域
- 県境
- 市町村界
- 高山帯・亜高山帯 - 自然林・自然植生
- 山地・低地・台地 - 自然林・自然植生
- 山地・低地・台地 - 二次林・二次草原
- 山地・低地・台地 - 植林
- 低地・台地 - 農耕地
- 自然草原・開放水域
- 市街地

山梨県出典：「第2回～5回自然環境保全基礎調査 植生調査 山梨県」  
 (昭和54年度～平成10年度、環境庁)  
 長野県出典：「第2回～5回自然環境保全基礎調査 植生調査 長野県」  
 (昭和54年度～平成10年度、環境庁)



1:50,000

